



2017年度 年間聖句

そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分もなく、男も女もありません。  
あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです。

ガラテヤの信徒への手紙 3章28節

## 特別寄稿

サーロー・節子  
(高女56・大英2)

主のご降誕と2018年の新春の  
お祝詞を申し上げます。



2017年は世界の市民にとって夢想的にできなかった二つの画期的な出来事に祝福され、この運動に直接関与した私にとって感動と興奮から醒める術もありません。

まず7月7日、国連本部で国連に属する国の3分の2に近い122カ国の賛同で核兵器禁止条約が採択されました。核兵器の保有、使用、実験等々を違法であると断じ、「悪の烙印」を押しました。従来の国家の軍事的安全保障をベースとしてきた核軍縮交渉に対して、人類全体の生存と安全を守るための「人道的アプローチ」を強調された初の条約です。被爆以来、私たち被爆者が求め訴え続けた「核兵器のない世界」の実現に向けて歴史的一步となりました。

条約採択直後のスピーチで、国連の交渉会議で会議議長のコスタリカ軍縮大使は私を名指し「あなたの数度に渡るヒバク証言はこの会議に絶えずインスピレーションをもたらし、各国代表は時間を惜しんで条約完成にむけて努力しました。感謝します」と公言されました。瞬時、驚きと涙と共に72年前の広島に死者に熱い想いと祈りを捧げました。

重ねて10月6日、国際NGO「核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)」のノーベル平和賞授賞が発表され、事務局長と共に団体を代表して栄誉を受けることになり、その節には皆さんからの種々なメッセージを受け、心から感謝をして受け取りました。

核兵器禁止条約から最終目的の廃絶までへの前途にはより厳しい国際政治が待ち受けています。日本政府はこの条約に署名も批准もしないと言い、米国の核の傘に依存を続けています。

女学院の皆さん、広島市民の皆さん、唯一の被爆国の皆さん、今こそ日本政府が核禁止条約を批准し、核廃絶に向けて行動することを訴え続けてください。



# 女学院中高食堂

# 食堂

## なつかしの女学

中学、高校そして大学時代の思い出と一緒に食べた美味しい食堂のお昼ごはん。思い出のメニューがあるはず。懐かしい女学食堂を再現しませんか。



色とりどりの日替りメニュー



チーズハンバーグランチ  
週1日限定(2~3食)の希少メニュー。



**人気メニュー**

担々麺  
揚ワンタンメン  
五目ラーメン  
冷し中華(夏季)  
親子丼  
天とじうどん  
元氣うどん(冬季)

キャベツ丼 **弁当**  
ピピンパ丼  
冷しうどん(夏季)

食券売場のメニュー表。懐かしい人も多いはず。



お弁当人気No.1のキャベツ丼

お弁当やサイドメニュー(おこのみ棒、たこ焼、おからドーナツetc)も、すべて食堂職員さん達のお手製。仕込みは毎朝7時から。

## Memories etc

**Nさん(高女52)の思い出**  
食堂で食べれたのは、第二次世界大戦が始まる前のほんの僅かな期間でした。昆布でとったおだしのうどんは絶品で、だしを取った昆布は洗濯ばさみで留めて食堂にぶら下げてあったんですよ。

**Aさん(高33)の思い出**  
高3になってブランクの時間に食堂で友達と過ごす時間はちょっと大人になった気分でした。混雑しない食堂で誰よりも先に食べるカツカレーは最高でした。

**ごぞんじですか**  
現在の体育館が出来た1970年に厨房施設も整い、今の食堂がスタートしました。それまでは同窓会が売店と食堂を運営していました。中高・大学の食堂は卒業生も利用できます。

## 支部会だより

**広島地区会** 10月6日(金) ANAクラウンプラザホテル広島 参加者76名

ゲストにはフリーアナウンサーの桂幾子さんをお迎えしました。桂さんは中・高・大学に在学され、高校ではミュージカル同好会を作られました。大学在学中よりTVレポーターをされ、現在も司会、朗読でご活躍です。岩国刑務所の就労支援をされ、昨年は原爆死没者追悼平和祈念館の被爆体験記を英語で朗読され、オバマ大統領の折った鶴と共に渡米されました。「口から出た言葉は消しゴムでは消せません」をモットーに、前向きで言葉を大切に用いた人との話し方やコミュニケーションの仕方をお話し下さり、楽しいひと時でした。(吉光みつえ/高25)



**山口支部会** 11月25日(土) 山口グランドホテル 日本料理 雅 参加者8名

今回は、下関方面から3名、山口から5名の参加でした。讚美歌「いつくしみ深き」と広島女学院校歌を歌いました。年に一度の地区会。不思議な事に、讚美歌も校歌も身体の中から自然に出て来ます。美味しい和食を頂きながらの近況報告。30年間勤務の後に、身体の不調に気が付かれ、早期に手術をされ無事であった方は「人生が大きく変わりました」とのこと。早期発見の大切さをみんなで納得致しました。恩師の思い出、学生時代の話等、瞬く間の至福の時。次回の再会を楽しみに家路へ向かいました。(南波敏子/文英1)





# 特集

院食堂はいま…

にひとときキラキラと輝くもの、それは友達  
まん。それぞれの時代に、それぞれの思い  
院の食堂の「今」をご一緒にのぞいてみ

ories  
&  
ctera

## Kさん(高16)の思い出

弁当を食べた後や、あるいはこっそり  
早弁したあとに食堂にかけこみ、一  
杯のきつねうどんを友人とわけあっ  
て食べた。食堂のおばさんも心得た  
もので、「半分ずつね」と言いながら  
一人分のうどんを2つにわけ「あげ」  
も半分こ。確か30円。

## 現役女学院生の声

「時間目が終わったらお目当ての食  
券めがけてダッシュ!元気うどんが  
ゲットできた日はラッキー。食堂の  
おばちゃん達の顔を見るといつも  
なんだかほっとします。

## 食堂の“おばちゃん”の声

厨房をのぞきこんで私達の顔を見  
て「ごちそうさまでした」と言ってく  
れる生徒さん達、可愛いですよ。卒  
業生も時々食べに来てくれます。嬉  
しいですね。



緑の木もれ日が心地よい2階3階吹抜けの開放的なカフェテリア



# 女学院大学 アイリス キッチン



冬は鍋焼きうどんで決まり!

## 人気メニュー

ハンバーグ チキン南蛮  
ピビンバ丼 鍋焼きうどん(冬季)

## Vege-full Lunch ベジフルランチ

アイリスキッチンが提供するベジフルメニューは  
一日に摂取することが望ましい野菜の1/3以上  
が摂取できるメニューです。管理栄養学科の食  
育サークルの学生が考案しています。

### 管理栄養士の卵!

#### レシピを考案している学生からのメッセージ

「野菜が大切なのはわかるけど、なかなか食べられ  
ない…」という声に応えるために「ベジフルメ  
ニュー」を作りました。七夕、クリスマスの頃には季  
節のスペシャルメニューも登場します。



ハンバーグランチ



ちらし寿司ランチ

## 応援メニュー

「震災の記憶を風化させないために食  
卓から応援メッセージを発信してほしい」という思いから昨年「あぶら麩丼」を  
考案しました。被災地産食品を積極的  
に消費する献立です。牛田商店街での  
取り組みをアイリスキッチン(大学食堂)  
で受け継ぎ、毎月11日に宮城県産あぶ  
ら麩を使用した丼を提供しています。

被災地応援メニューには、他にもなすやト  
マトなどの野菜(熊本)、広島菜漬(広島)  
を使用した応援メ  
ニューを学生達が  
考えました。



あぶら麩丼

## 福岡支部会

10月21日(土)  
ホテルニューオータニ博多「大観苑」 参加者24名

本部より大矢会長、塩冶副会長、佐賀から諸隈支部長の御出席を  
頂き58年目の支部会を開催しました。会長から大学の新学部・学科  
開設の件、核兵器廃絶の為に活躍しておられる同窓生の話、130周年  
記念募金に関する報告がありました。続いて、「アメーzingグレース」  
で始まったオカリナアンサンブルによるミニコンサート。懐かしい二曲  
は一緒に歌って楽しみました。初参加の方、  
久し振りの方が多かったので、お料理を頂  
きながら全員に自己紹介を兼ねて近況等を  
語って頂きました。雰囲気の良い会だった  
と言われ感謝でした。(瀬良紀子/大英11)



## 中部ブロック

10月18日(水)  
名古屋 Marriott アソシアホテル「京都 つる屋」 参加者12名

大矢みどり同窓会会長のご参加をいただき、高校10期から58期ま  
での、懐かしい方や若い方12名の参加となりました。大矢会長から  
は、広島女学院の現状報告があり、湊学長の指導力、構想力、人間  
力の話や、今年度、ノーベル平和賞を受賞されたICANの活動の中で  
被爆体験を伝えられている同窓生の話なども聞かせてもらいまし  
た。参加者全員が自己紹介をしながら親  
睦を深め、1年に一度の再会を楽しみまし  
た。今回は、初めて見る同窓会グッズ(ハン  
カチと一筆箋)があり、皆で協力させても  
らいました。(柳井妙子/文日9)



# リレー エッセイ

## 「今日を生きよう、 明日もまた今日を…」



元中高国語科  
森 匡世 先生(高女50)

「過ぎ行く時」だけは、生きとし生けるすべてのものに、確実に平等に寄り添って、それぞれの人生を運んでくれる。私が、広島女学院高等女学校に入学したのは、一九三七年日中戦争が始まった年であった。その私も何時しかこの春には九十二歳、年齢の事は気にしなかった私も流星に驚いている。過ぎ去ってしまった東の間の出来事だ。

加齢と共に足腰が弱くなるのは悔しいが、しかし老いるという事は楽しい事だ。年を重ねてはじめて見える景色がある。まずは制約を受けない自分の時間もたっぷりある。一日長生きすれば必ず何かしら獲物がある。例えば長い間書棚に並べていた本が一冊読めた、久しぶりに友人を迎えて昔語り、花を咲かせる、教え子達が訪れてくれて讚美歌から始まり歌曲やシャンソンまで一緒に大合唱する、時には若い人を相手に戦争の歴史や被爆体験を語る。昔は軍国少女、今は戦争絶対反対論者である。

先日、心に染みる本に出会った。平安王朝末期の乱世を生きた鴨長明の無常観を「今」に重ね、人間の心の在り方について述べられた玄侑宗久著「無常という力」。彼は、無常は自然界の摂理だし、人間本来な生き方である、諦めではなく無常を真正面から受け入れ、むしろ無常を生きる力とせよと言う。東日本大震災を体験し、しかも僧侶として常に無常と向き合っている方だ。私も漸く自分の人生を俯瞰できる年齢になり、この無常肯定観は十分納得のいく話である。そこから「今日を生きよう、明日もまた今日を生きよう」という覚悟みたいなものが生まれてくる。でも難しい課題ではある。

私の家の窓から見える瀬戸の海は、澄んだ冬の陽を浴びてキラキラと輝き、似の島が穏やかな姿で今日も変わらず在る。しかしこの島は七十二年前、火葬の島として被爆者が送られた。今のこの安らかさ。無常は定着を否定し希望を生む。

しかし祈る。戦争のあとの平和はダメ。「平和だけは常にあれ」と。



## Letter from 同窓生



核兵器禁止条約採択前に女学院生集合  
左：竹内道さん、中央：節子サーローさん、右：筆者

荊尾 遥 さん (高53)  
国連軍縮部 政務官

私は2017年の年明けにニューヨーク国連本部の軍縮部の大量破壊兵器室に赴任しました。ニューヨークでは、広島女学院の同窓生3人にこの半年間でお会いしました。

2017年7月に採択された核兵器禁止条約の交渉会議では、私はNGOとの窓口を担当しており、この会議で広島の被爆者として同禁止条約採択時に感動的なスピーチをされた節子サーローさんにお会いする機会がありました。左の写真に写っている竹内道さんも女学院の卒業生で節子サーローさんと一緒にNGO「ヒバクシャ・ストーリーズ」のメンバーとして同行・サポートされていました。女学院の同窓生と世代を超えて「核兵器の廃絶」という共通の目的のために一緒に働くことが出来たことを誇りに思います。

また、同級生の近藤有希さんともニューヨークで再会することとなりました。彼女はこの秋から次の赴任地に異動してしまいましたが、民間セクターで働く彼女のネットワークも国際機関とはまた違う刺激がありました。

先日、同僚からの問い合わせで、まだお会いしていない女学院の卒業生から手紙が国連軍縮部に届いていたことを知りました。ポストンに住む被爆者の方で、出来ることがあれば是非協力したいとの内容でした。このように、同窓生とのつながりを日本を離れても感じる機会が多くあることをとても嬉しく思います。



## 同窓会の流れの中で

九州ブロック長

瀬良 紀子（大英11）

35年前、福岡に引越してやっと落ち着いた頃、福岡中部教会でお会いした柴田夏子様（初代支部長）が御自宅で広島女学院の同窓会をするからとお誘い下さり、私にとり初めての同窓会参加になりました。同級生の水野瞳さんと喜んで出かけ御馳走になり和やかな時を過ごしました。その時、二代目の支部長だった岩橋通枝様が「もうしんどくなったので若い人に替って頂きたい」と言われ、「一番若かった私達二人で引き受ける結果になりました。長く福岡に住んでおられ元気のいい水野さんが三代目の支部長になって下さり、私は会計を兼ねた補佐役にして頂きました。但し全国代表者会議には交替で出席する約束で。」

ブロック制になる前は、九州支部（現福岡支部）しかなく福岡市と北九州市のグループが二年毎に交替で同窓会を主催しておられました。私達に替って初めて福岡市で同窓会を開いた時、北九州からも御高齢の先輩が数名出席して下さい、「今後とも若い方の参加は望めないで福岡と一緒にして下さい。私達が毎回出てきますので」と頼まれ、私達二人も子供がまだ小さく北九州までは行けないので、その話に同意しました。

二人で試行錯誤しながら約10年が過ぎた時、水野さんは広島に帰られる事になり、折しも同窓会はブロック制に移行しました。取り敢えずブロック長として名前を出したまま現在に至っています。熊本以外には支部が発足し、各支部の実情に合わせた歩みが続いています。九州は広く交通の便も悪いので全体としての活動は望めませんが、お誘いがあればお互いに出かけて支部を超えた交流を楽しんでいます。

四代目支部長を引き受ける時、今後は役員の数を増やして皆で一緒に考えて歩んで行くこうと話し合い、早や25年余り経ちました。これまで御支援を頂きました母校の恩師、同窓会本部の役員の方々に心より感謝しています。



筆者：後列左端  
広瀬ハマコ先生：前列中央

## 同窓会バザー 報告

バザー委員長 椎木裕子

2017年11月3日（金）、中高文化祭当日、同窓会本部恒例のバザーを開催いたしました。多くの方からの献品、パン、果物、手作り品等を販売し、同窓会館では“Caféアリス”が好評で多くのお客様で賑わいました。天候にも恵まれ、昨年を上回る収益となりました。皆様の御協力と献品に感謝いたします。収益は本部活動費に充当し、一部は8月6日の平和祈念式に使わせていただきます。



手作り小物



Caféアリス

## 追悼 森本順子さん（高女56）

9月21日同窓生でオーストラリア在住の絵本作家森本順子さんが亡くなりました。森本さんは、広島女学院高等女学校在学中の13歳の時に三篠町の自宅で被爆、九死に一生を得たものの、建物疎開に動員された多数の同級生は原爆の犠牲となりました。

京都市立美術大学を卒業後、美術教師を経て1983年にシドニーに移住され絵本作家として活躍されました。88年には同窓生への慰霊の気持ちを込めて被爆体験や広島島の惨状、そして復興までを描いた絵本「MY HIROSHIMA」をオーストラリアで出版、その後日英両語版が発行され広島女学院中学やオーストラリアの学校で平和学習教材に使われています。女学院高校校地沿いにはこの絵本の中の7枚の絵が陶板製の絵碑として設置されています。2005年には広島女学院同窓会被爆60周年証言集「平和を祈る人たちへ」の表紙絵を描いて頂き、ご自身の被爆証言も執筆くださいました。謹んで哀悼の意を表します。



絵碑

## コンサートのお知らせ

- 中高吹奏楽部OGによる綿田先生退職記念コンサート  
日時 2018年3月3日（土） 16:00～ ゲーンズホール
- 第34回 音楽部OG合同演奏会  
（星野先生退職記念コンサート）  
日時 2018年4月1日（日） 13:30～ ゲーンズホール

## 同窓会新グッズ紹介

川中晶子さん(高25回、元中高生物教師の魚坂寛先生の長女)のデザインによるジャガード・タオルハンカチです。

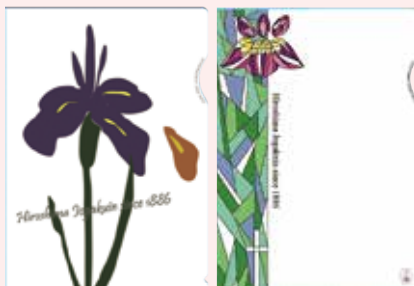
クリアファイルは大学との初コラボ。左利きの人にも扱いやすい仕様としました。生活・デザイン建築学科の小野育雄教授のご協力のもと、デザイン・コンペを授業に組み込んでいただき、55作品の中から3回の選考会を経て、2作品の商品化が決定しました。

凛と立つアヤメは榎場百香さんの作品。曲線に優しさとかさが表れるので、手描きにこだわりました。アヤメの花びらは学校の仲間たち、今は一つにまとまっているが卒業して巣立っていく姿を両面に表現したそうです。

直線を組み合わせたステンドグラス



ジャガード・タオルハンカチ



クリアファイル

と宝石のようなアヤメは、中島雪映さんの作品。同窓会のクリアファイルなので、見てすぐに女学院と分かるイメージを考え、ステンドグラスを選んだそうです。

11月、あやめ祭実行委員として忙しい学生デザイナーお二人を大学に訪ねました。女学院大学の良い所を尋ねると、先生と学生の距離が近いとの返答。そんな大学で充実した日々が続きますように。眩しい後輩達が誇らしく楽しい時間でした。

(事業委員長 山口曜子)



(左：榎場 百香さん、右：中島 雪映さん)

### 2018年度年間行事予定

4月20日(金) 4月21日(土)	全国代表者会議 2018年ホームカミングデー
6月 6月上旬 6月7日(木) 6月16日(土)	佐賀支部会 岡山・福山合同同窓会 関西ブロック合同同窓会 奈良ホテル 愛媛・高知支部会
7月 7月上旬	賀茂地区会 関東ブロック主催「夏雲の集い」
7月～8月	「小さな祈りの影絵展」への協力
8月6日(月)	広島女学院 平和祈念式
10月	広島地区会 呉地区会 山口支部 各地区会
11月3日(祝)	同窓会バザー
12月	クリスマス会(宗教委員会) クリスマス会(関西ブロック) クリスマス会(佐伯地区)
2019年1月	高校 同窓会受入式
3月	大学 同窓会受入式

随時 HPに更新していますので、ご確認ください。

### 召天

謹んで哀悼の意を表します。

升田 ヒナ(岡田)	高女45	坪池 武子(木下)	高女46
諏訪 芳江(多賀谷)	高15短14	大田 恵美子(堀)	高女54
石丸 和子(守屋)	高女46	尾崎 由江(槍和田)	高4
多々 義美(守屋)	高女54専被4	細井 祥子(八木)	高8
堀川 邦子(平岩)	高3大英3	中村 美保子(吉田)	高13
早田 成子(中川)	専庭7	新宅 信子	高女44
稲田 朝子(藤田)	高8大英8	磯見 敏子(山出)	高6
小中 光子(杉岡)	短2	萩原 美美子(佐倉井)	高10
綾地 弘子(永井)	高7短6	大倉 千都子(赤木)	高9
岡田 安佐子(内藤)	短20	竹嶋 恭子(河野)	大英14
吉田 文江(吉田)	高6	近藤 明美(中村)	高3短2
中町 邦子(高橋)	高11	廣畑 加代子(和田)	大英13
長谷川 洋子(福澄)	短5	横溝 玲子(横溝)	高女52
石田 佳子(中林)	高7	小滝 積子(須間)	高4
橋本 良枝(佐々木)	短19	高先 邦子(尾上)	高27
大之木 悦子(笠)	高6会友		
中元 須磨子(燈明田)	高29短28		
清水 はる(清水)	高6大英6		
斎藤 孝子(西田)	高6大英6		

2017年8月から11月までにご逝去のお知らせをいただいた方々です。(敬称略)

### 寄付 2016年12月～2017年11月

三ノ京 由香様	5,000円
大之木 悦子様ご遺族	100,000円
関西ブロック	10,000円

## 2018年 ホームカミングデーのお知らせ

テーマ 心をひとつに～あやめの伝統をつなぐ～

日時 2018年4月21日(土) 10:30～13:30  
場所 リーガロイヤルホテル広島  
会費 8,000円

2018  
ホームカミングデー実行委員会  
当番学年

高校18 短大17 大英18  
高校28 短大27 文英10 文日10  
高校40 短大39 文英22 文日22

### 編集後記

新年号の巻頭言は「時の人」サーロー節子さんのメッセージです。サーロー節子さんは広島女学院中高・大学を卒業後、米  
国に留学、結婚後カナダに移住され、カナダに住む被爆者として核廃絶運動を続けてこられました。サーロー節子さんの被爆  
証言は「平和を祈る人たちへ」に掲載されています。広島女学院で蒔かれた「種」がそれぞれの場所で芽吹き、それを神様が  
成長させて下さっている喜びをかみしめています。